

酒米新品種「石川酒 52 号」の育成

1 背景・目的

県内酒造メーカーでは、純米酒、本醸造酒には本県でも広く栽培されている「五百万石」が使用され、吟醸酒には、本県では栽培しにくい兵庫県産「山田錦」が使用されている。酒造メーカーからは、本県独自品種を用いた新たな石川ブランドの純米酒や吟醸酒づくりの要望が強い。これに応えるため、吟醸酒向け醸造適性を持ち、本県での栽培に適した酒米品種を育成した。

2 技術のポイント

- (1) 農研育成の酒米系統「予 236」と「新潟酒 28 号(一本ノ)」の交配後代から選抜し、栽培しやすく吟醸酒向け醸造適性の高い「石川酒 52 号」を育成した。
- (2) 早生、短稈で、耐倒伏性は五百万石より優れるが、収量性は五百万石よりやや少ない。玄米は五百万石並の大粒(表 1)。
- (3) 玄米外観品質は五百万石並に良好で、心白発現率は五百万石よりやや高い(表 2)。
- (4) 醸造適性を評価するため、精米 30kg または 200kg 規模で吟醸酒としての試験醸造を行い、きき酒検討会で、山田錦並の評価を得た(表 3)。

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 品種登録平成 19 年 12 月 25 日「石川酒 52 号」の品種登録を出願した(第 21865 号)。
- (2) 酒造メーカーの醸造試験をふまえ、石川ブランドの酒の醸造に移行できるよう栽培面積の拡大を検討する。



問合先：育種グループ TEL 076-257-6911

担当者：野村 央文

表1 石川酒52号の概要(農研H16~H19)

品種・系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	脱粒性	精玄米重 (kg/a)	対標比 (%)
石川酒52号	7/26	8/30	84.4	20.2	286	0.1	難	44.9	93
比) 五百万石	7/25	8/31	83.2	21.4	302	0.6	難	48.1	100
比) 山田錦	8/19	10/2	105.4	20.6	343	2.0	やや易	38.1	79

注) 倒伏程度 ; 0(なし)~4(甚)

表2 石川酒52号の玄米品質(農研H16~H19)

品種・系統名	玄米 千粒重 (g)	玄米 蛋白質 (%)	玄米 外観 品質	心白 発現率 (%)
石川酒52号	26.1	7.3	3.1	93.5
比) 五百万石	25.8	7.1	3.3	89.7
比) 山田錦	27.4	7.3	4.5	84.2

注1) 玄米蛋白質はKett AN-800による測定値(水分15%換算)

注2) 玄米外観品質は1(上上)~9(下下)の9段階評価

表3 きき酒検討会の総合品質平均点

組合せ	H16	H17	H18	平均
石川酒52号 予236/新潟酒28号	1.6	1.7	2.0	1.8
山田錦 山田穂/短稈渡船	1.9	1.6	1.2	1.6

注) 評価は金沢国税局鑑定官、石川県酒造組合連合会、県
数値は低い方が良好(1:良、2:中、3:不良)

H16, H17 : 精米30kg規模 麴米評価

H18 : 精米200kg規模

予236 : 五百万石/フクヒカリ

(参考) 県内の酒米作付面積 (ha)

区分	H17	H18	H19
水稻作付面積	27,200	26,900	26,700
うち酒米	257	221	247
うち五百万石	222	203	228